

兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(1)*

高橋寿郎

1. はじめに

兵庫県の水棲甲虫についての文献類をここにまとめた。何分にも貧弱な所有文献からのものであるから、多くの重要な文献類の見落としや脱落があるものと思われる。それ等について御教示頂くことができれば幸いである。ここに収録した文献については多くの方々の援助によって得たものがある。いちいち御芳名は記さないが厚くお礼申し上げさせて頂く。

2. 凡 例

- 兵庫県の水棲甲虫について記述のある印刷物は内容、体裁にかかわらず同一に扱った。
- 記述は著者名(発表年)、表題、誌名、巻(号) : 頁の順に行った。単行本は書名を「」でくくり、発行所名を()に併記した。
- 配列は発表年月日順とした。この目録はそのまま兵庫県の水棲甲虫研究史となる。
- すべての文献に種名を中心とした抄録を付し、今後の基礎資料となるようにした(学名の必要あるものには学名も入れた)。なお、50種以上の採集目録は、「仮目録」に文献番号を付記することによって抄録にかえた。
- ここにとりあげた水棲甲虫とは、コガシラミズムシ科、ムカシゲンゴロウ科、コツブゲンゴロウ科、ミズスマシ科、ゲンゴロウ科、ガムシ科、ヒラタドロムシ科、ドロムシ科、ヒメドロムシ科、ナガドロムシ科と10科に所属する甲虫類であることを承知頂きたい。
- 学名、和名は原則として日本産昆虫総目録、1989 に依拠した。
- 直接見ることのできなかつた文献には*印を付

してある。

3. 文献目録

1873. Sharp, D. The Water Beetles of Japan. Trans. ent. Soc. London, Part. I : 45-67.
G. Lewis が日本で採集した水棲甲虫、ゲンゴロウ科及びガムシ科に關しての論文で35新種、12既知種が記載されている。現在の分類でコツブゲンゴロウ科、ミズスマシ科と別けられる種も含まれている。兵庫県産で記録されているものは次のごとくあり、しかも新種として14種が記載されている。兵庫県の水棲甲虫として一番古い研究論文になると考えられる。
Dytiscidae ゲンゴロウ科
- p.48. *Hydaticus rufulus* Aubé = *Cybister brevis* Aubé, 1838 クロゲンゴロウ Hiogo
Hydaticus japonicus Sharp = *Cybister* ゲンゴロウ Hiogo. 新種。大阪の池沼、兵庫の池に多いとある。
- p.49. *Agabus (Platambus Th.) pictipennis* Sharp = *Platambus* モンキマメゲンゴロウ Hiogo. 新種。運河の石の下で4匹得たと。
- p.50. *Agabus japonicus* Sharp マメゲンゴロウ Hiogo. 新種。
- p.51. *Ilybius apicalis* Sharp キベリクロヒメゲンゴロウ Hiogo. 新種。稀とある。
- p.52. *Laccophilus lewisius* Sharp ルイスツブゲンゴロウ Kobe. 新種。
- p.53. *Laccophilus kobensis* Sharp コウベツブゲンゴロウ Kobe(Hiogo). 新種。多分普通種だろうとしている。
- p.54. *Hyphydrus japonicus* Sharp ケシゲンゴロウ Hiogo. 新種。普通とある。

*兵庫県甲虫相資料・307

Noteridae コツブゲンゴロウ科

p.51. *Hydrocanthus politus* Sharp = *Canthyrus* ムツボシツヤコツブゲンゴロウ Hiogo. 新種。池に普通とある。

Gyrinidae ミズスマシ科

p.55. *Gyrinus japonicus* Sharp ミズスマシ Hiogo. 新種。多い。

Hydrophilidae ガムシ科

p.58. *Hydrochaeres affinis* Sharp = *Hydrochara* コガムシ Hiogo. 新種。

p.60. *Helochares lewisius* Sharp = *Helochares pallens* (Mac Leay) ルイスヒラタガムシ Hiogo. 新種。

p.62. *Amphiops mater* Sharp タマガムシ Hiogo. 新種。

p.65. *Cercyon aptus* Sharp コケシガムシ Hiogo. 新種。

p.66. *Cercyon laminatus* Sharp ウスモンケシガムシ Hiogo. 新種。糞の中から得たとある。

なお、Sharp, D. は1884年にも The water-beetles of Japan なる論文を発表(Trans. ent. Soc. London, Part. IV:439-464)、多くの新属、新種記載を含む日本の水棲甲虫を記録しているが、大体日本の北半分の所の産地が多く、残念ながら Hiogo からの記録は全く見られなかった。

2. 1887. Schönfeldt, H.V. Catalog der Coleoptera von Japan mit Angabe der bezuglichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.

Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde 40:31-204.

この目録発表年迄に日本から記録された甲虫類のリストで、原記載名も一緒に示してある。この目録での新種記載というのはない。記録された種が現在の知見で学名の変わるもの、整理してシノニムで消えるものもある。一応、水棲甲虫のみで Hiogo, Kobe と産地の書いてあるものを次に記し

ておく(和名で示し、学名の必要のあるものは学名を入れた)。

p.58. ハイイロゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、シマゲンゴロウ

p.59. マメゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、*Canthydrus nitidulus* (Sharp) ツヤコツブゲンゴロウ Hiogo. この種はトカラ中之島以南に分布する種で、ムツボシツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus politus* (Sharp, 1873) のことであろう。コウベツブゲンゴロウ、ルイスツブゲンゴロウ

p.60. ケシゲンゴロウ

GYRINIDAE

p.61. *Dineutes marginatus* Sharp = *Dineutes orientalis* (Modeer) オオミズスマシ Nipon, Kiushiu, Hiogo. この種の原因記載は、Trans. ent. Soc. 73.56 とあるも、この原因記載の箇所には Abundant Nippon and Kiushiu とあって Hiogo の産地は出ていない。

HYDROPHILIDAE

Hydrocharis affinis Sharp = *Hydrophilus bilineatus cashimirensis* Redtenbacher コガタガムシ Niigata, Ogura-Sea, Hiogo.

p.63. *Helochares Lewisius* Sharp = *Helochares pallens* Mac Leay ルイスヒラタガムシ Hiogo, Nagasaki. タマガムシ

p.64. コケシガムシ、ウスモンケシガムシ

3. 1902. 大上宇一. 播磨産甲虫報知 動物学雑誌 13(157):360-363.

大上宇一が播磨産の甲虫類を科別にまとめて、報文として発表を始めた冒頭に(動物学雑誌 Vol. 13, No. 155:289)述べているごとく、この一連の報告は松村松年博士の"日本昆虫学"(1889)によって同定しているが、これ以外の書は全く見ず、和名も学名も知らざるものは止むを得ず傍若無人的の和名を下せりとあるように、この報文だけで現在のどの種を意味しているのか的確に判定できない

ものが多い。

標本も現存していないので、まず間違いないであろうという種のみを示すことにした。学名も現在の知見ではかなり変更が必要である。

ゲンゴロウ科 4種。ゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、マメゲンゴロウ(スナムグリ *Agabus japonicus* Sharp)

ミズスマシ科 2種。ミズスマシ、オオミズスマシ

ガムシ科 3種。ガムシ、コガムシ、ヒメガムシ

4. 1907. 大上宇一. 播磨産甲虫類(承前)

昆虫世界 11(115):110-112.

今回の報文では、Lewis の「日本産甲虫目録」、松村松年博士の日本千虫図解、日本昆虫学、動物学雑誌、昆虫世界を参考にしたとある。各種に学名がついている。但し、この学名は現在ではかなり変更を要するものがある。記録されているのは次の通り。

コガシラミズムシ科 1種。コガシラミズムシ

コツブゲンゴロウ科 1種。ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

ゲンゴロウ科 11種。マルガタゲンゴロウ、ゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、コシマチビゲンゴロウ(本種は九州南部に分布する種で、兵庫県にはいないと思われる)、ハイイロゲンゴロウ、クロツマメゲンゴロウ、エソヒメゲンゴロウ(ヒメゲンゴロウと考えられる)、マメゲンゴロウ

ミズスマシ科 2種。オオミズスマシ、ミズスマシ

ガムシ科 9種。スジヒメガムシ、スジヒラタガムシ、シジミガムシ、タマガムシ、マメガムシ、マグソガムシ、ガムシ、ゴマフガムシ、コガムシ

5*: 1920. Zimmermann, A. Bemerkenswerte Neuerwerbungen des Zoologischen Museums in Hamburg.

Halipidae, Dytiscidae et Gyrinidae.

Entomologische Blätter, 16, pp.226-227.

この論文、筆者は所有していないが、*Copelatus parallelus* Zimmermann コセスジゲンゴロウが"Settsu"(摂津)から記載されている。

6. 1931. Takizawa, M. The Halipidae of Japan. Ins. Mats., 5(3):137-143.

日本産コガシラミズムシ科の研究である。2新種の記載あり(1新種は朝鮮産)。兵庫県産は1種のみ記録あり。

p.141. *Halipus ovalis* Sharp, 1884 ヒメコガシラミズムシ Takasago lex. 14.VII. S.Matsumura leg.

7. 1931. Takizawa, M. The Gyrinidae of Japan. Ins. Mats., 6(1):13-21.

日本産ミズスマシ科の研究で1新種、1新変種の記載あり(もっとも新種は台湾産)。兵庫県産として次の種が記録されている。

p.15. *Dineutes marginatus* Sharp = *Dineutes orientalis* (Modeer, 1776) オオミズスマシ Takasago, 6exs., Matsumura leg.

p.18. *Gyrinus gestroi* Regimbart, 1883 ヒメミズスマシ Takasago, 3exs., S.Matsumura leg.

8. 1931. T.Kano & K.Kamiya. Two New Species of Halipidae from Japan.

Trans. Kansai Ent. Soc. (2):1-4.

p.1-2, pl.1, Fig.1&1a. *Halipus hiogoensis* Kano et Kamiya 新種記載がある。Hab. Honshu (Hiogo lex., 13.X.1929, K.Kamiya. Kobe, lex., 13.XI.1929, K.Hasumi) 兵庫県武庫郡甲東園1929年10月13日 神谷1♂採集、神戸1929年12月13日羽隅侃次氏1♂採集、本種は現在では *Halipus (Liaphus) eximius* Clark, 1863. キイロコガシラミズムシになる。

9. 1932. Takizawa, M. The Dytiscidae of Japan, Part. I (Noterinae, Laccophilinae)

Ins. Mats., 7(1/2):17-24.

日本産ゲンゴロウ科研究の第1報である。11種について記載されたうち、1新種(台湾産)の記載があり、兵庫県産は次の種が記録されている。

p.20. *Canthydrus politus* (Sharp, 1873) ムツボシツヤコツブゲンゴロウ Maiko, Takasago

p.22. *Laccophilus difficilis* Sharp, 1873 ツブゲンゴロウ Takasago

p.23. *Laccophilus kobensis* Sharp, 1873 コウベツブゲンゴロウ Akashi, Misaki, Takasago
Laccophilus lewisius Sharp, 1873 ルイスツブゲンゴロウ Takasago

Laccophilus sharpi Réginbart, 1889 シャーブツブゲンゴロウ Takasago

10. 1932. Takizawa, M. The Dytiscidae of Japan, Part. II.

Ins. Mats., 7(4):165-179.

日本産ゲンゴロウ科の研究の第2報である。23種が記録、うち4新種の記載(1新種は樺太産)。兵庫県からは1種のみ記録されている。

p.168. *Hyphydrus orientalis* Clark = *Hyphydrus japonicus* Sharp, 1873 ケシゲンゴロウ Takasago

11. 1933. 神谷一男. 日本産オナガミズスマシ属並びに1新種、1新亜種の記載。

昆虫 7(5/6):240-244

日本産オナガミズスマシ属7種(勿論当時の日本であるから台湾、朝鮮産それぞれ1種、並びに日本に産しない1種を含む)の記載で表題にあるごとく1新種、新亜種の記載も含んでいる。兵庫県産は次の記録がある。

p.240. *Orectochilus agilis* Sharp ツマキレオナガミズスマシ 猪名川にて福貴氏により100頭以上の標本が採集されたと。

p.244. *Orectochilus punctipennis* Sharp コオナガミズスマシ 猪名川

12. 1933. 瀧口 浩. 大阪附近に産する龍蝨科目録。

関西昆虫学会々報 (4):81-83.

表題のごとく大阪附近のゲンゴロウ27種の記録であるが、キベリマメゲンゴロウ、クロゲンゴロウ2種がはっきりと兵庫県川辺郡神津村(猪名川軍行橋附近)産として記録されている。

13. 1933. 関 公一. 御影町附近産の甲虫目録(其三)。

昆虫界 1(5):491-494.

六甲山並にその山麓一帯での甲虫目録ということになる。次のような記録があるが、学名などかなり訂正を要するものが含まれている。

p.491. ミズスマシ科. ミズスマシ、オオミズスマシ、ヒメミズスマシの3種。

p.493. ガムシ科. ゴマフガムシ、ヒメゴマフガムシ?、タマガムシ、ヒメガムシ、コガムシ、マメガムシ、ガムシ、マグソガムシ、チビガムシ = スジヒラタガムシ、スジヒメガムシの10種

14. 1934. 関 公一. 御影町附近産の甲虫目録(四)。
昆虫界 2(7):41-43.

ゲンゴロウ科7種が記録されている。即ち、クロゲンゴロウ、ゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ケシゲンゴロウの7種が記録されている。

15. 1934. H.Kōno. Die Dryopiden aus Japan.
Ins. Mats. 8(3):124-128.

日本産ナガドROMシ科甲虫8属9種についての分類論文であり、この論文がオリジナルではないが、2種の次の兵庫県産記録種がある。

p.125. *Elmomorphus brevicornis* Sharp ムナビロツヤドROMシ Kobe, nach Sharp.

p.125-126. *Stenelmis foveicollis* Schönfeldt = *Ordobrevia* ホソナガドROMシ = キスジミソドROMシ Hiogo, nach Sharp.

16. 1934. 足立輝一. 生徒採集昆虫調査報告.
昆虫界 2(10):30-33.
モンキマメゲンゴロウ一頭多分猪名川産ならんとの記録あり。
17. 1935. 竹中眞一. 下畑よりの昆虫十二種.
昆虫界 3(13):98-100.
p.99. ヒラタドロムシを下畑より名取への路上に獲たる一頭のみとある(属名は変わる)。
18. 1938. 生駒健一. マダラシマゲンゴロウの多産地.
昆虫 XII:33.
神戸市多井畑からの記録である。現在状況が変わっているので、どのようになっているか調査の要あり。
19. 1938. 神谷一男. 日本産甲虫図譜 [三]
日本の甲虫 2(1):1-9, pl.1.
p.2-3, pl.1, f.5, マダラシマゲンゴロウが生駒健一によれば神戸附近にてかなり多数採集されたとのこと。余も数頭の標本を頂いたとの記事がある。
20. 1940. 高橋寿郎. 神戸再度山附近産の甲虫目録.
昆虫世界 44(510):14-17.
ゲンゴロウ科12種、ミズスマシ科3種の記録。
ゲンゴロウ科 ゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、スナムグリゲンゴロウ = キベリクロヒメゲンゴロウ、シャープツブゲンゴロウ。
ミズスマシ科 オオミズスマシ、ミズスマシ、ツマキレオナガミズスマシ。
21. 1940. 高橋寿郎. 神戸再度山附近産の甲虫目録(二).
昆虫世界 44(511):76-79.
ガムシ科5種を記録。ガムシ、タマガムシ、コガムシ、ヒメガムシ、マグソガムシ。
22. 1941. 野村 全. 武庫川採集行.
昆虫界 9(88):45-46. (昆虫趣味の会神戸支部報 No.6)
スナムグリマメゲンゴロウ = キベリクロヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ等を武庫川原溜まり水中より採集。
23. 1941. 谷口和義. 第5回例会記事. 武庫川にて歩行虫. 水棲昆虫採集会.
(昆虫趣味の会神戸支部報 No.6)
昆虫界 9(88):47
武庫川河原の中にできた水溜まりよりコガタノゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ、キベリマメゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、コシマチビゲンゴロウ、キスジチビゲンゴロウ(?)、オオミズスマシを採集。河原の外の用水池にてコガタノゲンゴロウ、ヒメミズスマシを採集。
24. 1941. 増田 猛・橋本直也. 一中附近の昆虫 A 5, 39p.(孔版・単行本)
神戸一中(現神戸高校)附近産の甲虫と蝶の目録である(主として摩耶山を中心とした地域)。データは無い。同定の誤りとか学名の訂正の要などはある。ゲンゴロウ科次の4種が記録されている(p.4)。ハイイロゲンゴロウ、ゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ。
25. 1941. Bollow, H. Monographie der palaearktischen Dryopidae mit Berücksichtigung der eventuell transgredierenden Arten (Col.)
Mitteilungen d Münchn Ent. Ges. XXXI (1941) H.1:1-88, Fig.1.
ヒメドロムシ科のうち主としてアシナガミゾドロムシ属 *Stenelmis* とヨコミゾドロムシ属 *Le-*

phthelmis の分類研究論文である。前者は42種が記述されうち14新種、後者は1新種2既知種が記載されている。兵庫県産として次の2種の記録がある。

p.21-23. *Stenelmis freyi* Bollow 新種記載である。Mte.Rokko Nahe Tokio, 18.V.1932 の1標本によるとされ全形図もついている。産地がはっきりわからない。東京附近には六甲山というのは無いと思うが。

p.82-83. *Stenelmis foveicollis* Schönf. T. Lenz 採集の Hiogo 産標本が Senckenberg Museum in Frankfurt に保管されていると。残念ながら、両者とも現在の知見では *Ordobrevia foveicollis* (Schönfeldt, 1888) キスジミゾドロムシとなる。

26. 1942. 高橋寿郎。神有沿線甲虫相(一)
昆虫世界 46(543):331-335.

ゲンゴロウ科14種、ミズスマシ科3種を記録。
ゲンゴロウ科、ゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、ハイロゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、スナムグリゲンゴロウ = ケベリクロヒメゲンゴロウ、シャープツブゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ、ケベリマメゲンゴロウ。
ミズスマシ科、オオミズスマシ、ミズスマシ、ツマキリオナガミズスマシ = ツマキレオナガミズスマシ。

27. 1944. 谷口和義。本州及び琉球より新発見の龍蝨4種
昆虫世界 48(561):88-90.

Agabus(Gaurodytes) browni Kamiya, 1934 チャイロマメゲンゴロウ 多井畑 1♀, 28.XI.1940 の記録がある(谷口採集)。

28. 1944. 関 公一。日本産ゲンゴロウ科の数種に就いて

昆虫世界 48(561):90-92.

キボシゲンゴロウ *Hyphydrus flavomaculata* = *Nipponhydrus flovomaculatus* (Kamiya, 1938) 武庫川にて採集(lex., 31.V.1942. 関採集)

29. 1944. 谷口和義。阪神地方の小頭水虫類
昆虫世界 48(562):114.

兵庫県産5種が記録されている。コガシラミズムシ、兵庫県武庫郡本山村、伊丹市、尼崎市、西宮市、神戸市多井畑。ヒメコガシラミズムシ、尼崎市、西宮市(瓦木、甲陽園)、神戸市多井畑。ヒョウゴコガシラミズムシ、伊丹市、神戸市多井畑、播州育野ヶ原。チビコガシラミズムシ、武庫郡本山村、尼崎市、神戸市多井畑。マダラコガシラミズムシ、*Haliphus simplex* Clark で示されているが、現在 *Haliphus sharpi* Wehncke, 1880 の学名となる。武庫郡本山村 lex., 16.VII.1938. 燈火に飛来、阪口氏採集。

30. 1945. 関 公一。阪神地方のゲンゴロウ科
昆虫世界 49(569):30-33.

兵庫県産16種のゲンゴロウの記録あり。コツブゲンゴロウ、芦屋、神戸市須磨区多井畑。ムツボシツヤコツブゲンゴロウ、垂水。ツブゲンゴロウ、武庫村、多井畑、垂水。コウベツブゲンゴロウ、武庫村。ルイスツブゲンゴロウ、多井畑、伊丹市、猪名川。シャープツブゲンゴロウ、多井畑、伊丹市、猪名川。キボシゲンゴロウ、武庫川(国道電車-省線間)、ケシゲンゴロウ、武庫川、住吉村、猪名川、多井畑。マルチビゲンゴロウ = *Clypeodytes*, 本山村、多井畑。キスヂチビゲンゴロウ?、本山村、猪名川、垂水。コシマチビゲンゴロウ = *Nebrioporus*. 九州に分布する種で、ヒメシマチビゲンゴロウのことであると考えられる(中根, 1990)、武庫川、瓦木村、逆瀬川。ケベリマメゲンゴロウ、武庫川、武庫村、甲陽園、猪名川、垂水。クロツマメゲンゴロウ、多井畑。マメゲンゴロウ、武庫川、多井畑。チャイロマメゲンゴロウ、多井畑。

31. 1945. 関 公一. 阪神地方のゲンゴロウ科(2)
昆虫世界 49(570):48-50.

兵庫県産として13種記録されている。スナムグリゲンゴロウ = キベリクロヒメゲンゴロウ, 武庫川, 多井畑, 垂水. ヒメゲンゴロウ, 武庫川, 武庫村, 瓦木村, 住吉村, 本山村, 猪名川, 多井畑. ハイイロゲンゴロウ, 武庫川, 武庫村, 住吉村, 本山村, 徳井(神戸), 多井畑, 伊丹, 猪名川. マルガタゲンゴロウ, 武庫村, 谷上(神戸北方), 猪名川, 伊丹. シマゲンゴロウ, 武庫川, 徳井, 伊丹, 猪名川, 多井畑. ウスチャゲンゴロウ *Hydaticus fabricii* Macleay = ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhantoides* Sharp 武庫村, 瓦木村, 本山村, 垂水. コシマゲンゴロウ, 武庫川, 武庫村, 本山村, 甲陽園, 猪名川, 妙見山, 多井畑. マダラシマゲンゴロウ, 多井畑, 谷上. スジゲンゴロウ *Hydaticus vittatus* Fabricius = *H. satoi* Wewalka, 1975 淡路. クロゲンゴロウ, 武庫村, 尼崎市, 多井畑, 谷上, 垂水. マルコガタノゲンゴロウ, 徳井, 多井畑. コガタノゲンゴロウ, 武庫川, 武庫村, 伊丹.

32. 1946. 中根猛彦. 日向高鍋産甲虫類小録(IV).
昆虫世界 50(574):20-22.

チビガムシ(=キイロヒラタガムシ) *Enochrus simulans* (Sharpe, 1873) が西宮で普通に採集できるとの記がある。

33. 1949. 黒佐和義. 四国及び九州より発見の龍蝨7種.

近畿甲虫同好会々報 5(2):5-10.

Hyphydrus flavomaculatus Kamiya キボシケンゲンゴロウ 兵庫の記録あり。

34. 1950. 柴内俊次・中畔史雄. 神戸虫便り
札幌昆虫同好会々報 2(1):3-15.

次の各種について解説されている。

ヒョウゴコガシラミズムシ = キイロコガシラミズムシ, 池沼に普通。コウベツブゲンゴロウ, コ

セスジゲンゴロウ, *Settsu*(摂津) を基本産地としているがまだその後知られていない。チャイロマメゲンゴロウ, 神戸市東郊の甲陽園大池に多産。ウスイロシマゲンゴロウ, 神戸附近では各地の池沼に普通。キボシゲンゴロウ, 武庫川の一頭のみ。

35. 1950. 樋口繁一・橋本一廣・山田重次. 有馬郡生物誌(鞘翅目 pp.117-124)

兵庫県立有馬高等学校普通科生物教室刊。

次の水棲甲虫の記録がある。和名、学名のみでデータ無し。

コガシラミズムシ科1種, コガシラミズムシゲンゴロウ科11種. マメゲンゴロウ, キスジゲンゴロウ?, ゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ, シマチビゲンゴロウ, ゴマダラチビゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, スナムグリゲンゴロウ = キベリクロヒメゲンゴロウ, チャイロケンゲンゴロウ?, ヒメゲンゴロウ. ガムシ科5種. ゴマフガムシ, マビガムシ = スジヒラタガムシ, スジヒメガムシ, オホガムシ = ガムシ, シジミガムシ.

36. 1951. 山本義丸. 蛍光誘蛾燈に飛来する水棲甲虫の趨光性活動(第1報)

応用昆虫 7(1):20-24.

氷上郡柏原町にて蛍光誘蛾燈に飛来する水棲甲虫の飛来状況を調査した1948年7~9月に17回(うち終夜5回)、1949年6~10月に70回(うち終夜2回)の結果である。

飛来した種類は、ゲンゴロウ科14種、コガシラミズムシ科3種、ミズスマシ科3種、ガムシ科21種、ドROMシ科9種、ナガドROMシ科1種、計6科51種。

37. 1952. 山本義丸. 郷土・氷上郡の昆虫について

Natura (7):8-13. (兵庫県立柏原高等学校生物研究会刊)

具体的な表現での解説はごく一部分であるが、

ゲンゴロウ科17種と示されている。

38. 1952. 山本義丸. 兵庫県(丹波国)氷上郡より記録する水棲甲虫

Ento. Investigation (中国地方昆虫誌) 2 (1):13-18.

全部で6科52種記録されているが、現在の知見でかなり同定に不安のあるものを多く含んでいる。注目種のみ次に記しておく。

コガシラミズムシ科3種、ゲンゴロウ科16種、アヤナミツブゲンゴロウ = シャープツブゲンゴロウ、ミズスマシ科4種、ガムシ科21種、ウスモンケシガムシ *Cercyon quinquilius* L.(?) と記録。

Cercyon vagus Sharp 2mm 赤褐色とあるもの *C. olibrus* Sharpe アカケシガムシならん。ナガドロムシ科1種、ドロムシ科7種、ヨコミソドロムシ *Stenelmis flavittatus* Kono の学名で出ている種は、次に記されているホソドロムシと同じキスジミソドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (Schönfeldt, 1888) のこと。

キアシホソドロムシもよくわからない。キベリドロムシ = キベリアシナガドロムシ、アワドロムシ = アワツヤドロムシ *Awadoromus awanus* = *Zaitzevia*。

39. 1952. 田口勝夫. 甲虫の趨光性(蛍光灯と昆虫) (1)

兵庫生物 2(1):33.

神戸市立妙法寺小学校自然教育学習園で行った昆虫の夜間採集のうち、8月、9月、10月、11月の各月の代表4日間の詳しい採集データが示されている。その中で、水棲甲虫類も多くやって来ている記録が含まれている。ここでは来集した種名を次のとおり示しておく。

コガシラミズムシ科(具体的種名の記録はないが、来集した個体数は大変多く記録されている。)ハイイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、コガタゲンゴロウ、ムツボシゲンゴロ

ウ = ムツボシツヤコツブゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、コガムシ、ヒメガムシ、オオガムシ = ガムシ、コガタガムシ、オオミズスマシ。

40. 1952. 山本義丸. 蛍光誘蛾灯に飛来する水棲甲虫の趨光性活動(第2報)

兵庫生物 2(2):91-93.

氷上郡柏原町において水田の傍に設けられた蛍光誘蛾灯の1基に集まるコシマゲンゴロウとヒメガムシ、コガムシの飛来性比とか飛来数と各気象条件との相関などについて説明されている。

41. 1955. 御勢久右衛門. 日本産ドロムシ科幼虫の研究

新昆虫 8(12):9-14.

次のように兵庫県下産の記録はあるが種名がわからない。p.10-11. ヒラタドロムシ 氷上郡久下村篠山川 21.VIII.1951. p.13-14. *Elmis* sp. ^{ED} 豊能郡多田村猪名川 21.I.1953. p.14. *Elmis* sp. ^{EE} 豊能郡多田村西川 25.V.1951. *Stenelmis* sp. ^{SA} 兵庫県加古川 23.VIII.1951. *Stenelmis* sp. ^{SB} 兵庫県加古川 23.VIII.1951.

42. 1955. 大倉正文. 「原色 日本昆虫図鑑 甲虫編」

増補改定版 (保育社・大阪)

兵庫県産次の種がカラーで図示されている。

p1.64, p.203. コガシラミズムシ科4種. 1418. コガシラミズムシ 昆陽池. 1419. チビコガシラミズムシ 武庫川. 1420. ヒメコガシラミズムシ 昆陽池. 1421. マダラコガシラミズムシ 西宮. p.204. ミズスマシ科1種. 1424. ツマキレオナガミズスマシ 猪名川. ゲンゴロウ科17種. 1425. ゲンゴロウ 神戸市山田. 1426. クロゲンゴロウ 神戸市山田. 1427. コガタノゲンゴロウ 広田山. 1428. マルコガタノゲンゴロウ 昆陽池. p.205. 1431. マルガタゲンゴロウ 昆陽池. 1432. シマゲ

ンゴロウ 昆陽池, 1433. ハイイロゲンゴロウ 広田山, 1434. ヒメゲンゴロウ 昆陽池, 1435. コシマゲンゴロウ 昆陽池, 1437. キベリクロヒメゲンゴロウ 西宮, 1438. モンキマメゲンゴロウ 武庫川, 1439. テラニシセスジゲンゴロウ = コセスジゲンゴロウ? 本山, p.206, 1441. コシマチビゲンゴロウ 武庫川 = ヒメシマチビゲンゴロウ, 1442. ケシゲンゴロウ 昆陽池, 1444. タテナミツゲンゴロウ 昆陽池 = ルイスツブゲンゴロウ, 1445. アヤナミツゲンゴロウ 広田山 = シャープツブゲンゴロウ, 1446. ムツボシツヤコツブゲンゴロウ 多井畑.

43. 1956. 三浦佳文・森本義信・横田利彦. 生きた化石・県下の地下動物
兵庫県生物誌: 43-47. A5 (兵庫県生物学会刊)
姫路、相生市のメクラゲンゴロウに関する研究。

44. 1956. Janssens, E. Contribution a l'étude des Insectes Torrenticoles (Coleoptera, Elmidae)
Bull. Inst. r. Sci. nat. Belgique., 32 (44):1-4.

p.2-3, fig.1 に *Stelnelmis japonica* Janson なる新種を図とともに記載されている。タイプ標本はKobe産1♀ (coll. Baker) である。残念ながら、この種は *Ordobrevia foveicollis* (Schönfeldt) キスジミゾドロムシのシノニムである。

45. 1957. Uéno, S. I. Blind aquatic beetles of Japan, with some accounts of the fauna of Japanese subterranean waters.

Arch. f. Hydrobiol., 53:250-295, 3pls.
ムカシゲンゴロウ *Phraetodyteres relictus* S. Uéno (姫路産) の新属新種、メクラゲンゴロウ *Morimotoa phreatica* S. Uéno (姫路市、相生市)、subsp. *miurai* S. Uéno (柏原) の新属、新種、新

亜種の記載が発表されている。

46. 1957. 大倉正文. *Copelatus parallelus* Zimmerman コセスジゲンゴロウについて
昆虫学評論 8(1):22.

表題の種が淀川原(大阪府北河内郡守口町附近)で採集できたとして記載されている。本種は摂津産で記載された種で、この摂津が何処を示しているのかよくわからない。兵庫県、大阪府のどちらかでの産だと思いが現在このあたりにいるのかどうか大変疑問な種である。

47. 1958. 佐藤正孝. キボシケシゲンゴロウの分布と2新種について

昆虫学評論 9(1):13-14.

キボシゲンゴロウ 兵庫県柏原 5exs., 25.VII. 1950 山本採集の記録あり。

48. 1958. Nomura, S. Drei neue *Stelnelmis*-Arten aus Japan (Coleoptera, Elmidae)

Entom. Rev. Japan 9(2):41-45, pl.8.

兵庫県産ヒメドロムシ2新種の記載あり。

p.41-42. *Stelnelmis nipponica* Nomura (pl.8, fig.1). 4exs. Kakogawa. 3-4 & 5-6.VII.1954, H. Ishida leg. p.44-45. *Stelnelmis vulgaris* Nomura (pl.8, f.3). 1ex., Sasayama, Hyogo Pref. 28.VI.1952, T. Nakane leg.

49. 1958. 山本義丸. 兵庫県氷上郡昆虫目録

NATURA 特別号 氷上の自然第3集

氷上郡産水棲甲虫 コガシラミズムシ科3種、ゲンゴロウ科21種、ミズスマシ科5種、ホソガムシ科1種、ガムシ科21種、ナガドロムシ科1種、ドロムシ科7種、合計6科59種の記録がある。中に若干よくわからない種が含まれている。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)